

神崎 繁教授 履歴・業績

神崎 繁 教授 履歴・業績

履 歴

1952年11月29日 兵庫県姫路市にて出生

[学歴]

1971年 3月 兵庫県立姫路西高等学校卒業

1971年 4月 東北大学文学部入学（1976年 3月卒業）

1976年 4月 東京大学大学院人文科学研究科進学（1981年 3月博士課程単位取得退学）

[職歴]

1981年 4月 駒澤大学文学部非常勤講師（～1982年 3月）

1982年 4月 茨城大学人文学部講師（～1985年 3月）

1985年 4月 東北大学教育学部講師（～1987年 3月）

1987年 4月 東京都立大学人文学部助教授（～2001年 3月）

2001年 4月 東京都立大学人文学部教授（～2005年 3月）

2005年 4月 首都大学東京都市教養学部人文社会系教授（～2007年 3月）

2007年 4月 専修大学文学部（～2016年10月，逝去）

[学内役職歴]

2009年 4月 就職指導委員会委員（～2010年 3月）

2010年 4月 大学院委員会委員（～2011年 3月）

2010年 4月 障害学生支援推進委員会委員（～2013年 3月）

業 績

【著書】

- 「第一章 古代哲学」山下太郎編『哲学思想の歴史』, 公論社, 1982年12月
- 「〈徳〉と倫理の実在論—アリストテレスの「徳」概念の現代的意義—」日本倫理学会編『日本倫理学会論集29 徳倫理学の現代的意義』, 1994年10月
- 第1章「ギリシア哲学」の再編集版) 国嶋一則・久保陽一編『西洋哲学史—根源知の成立と展開—』公論社, 1997年4月 (『哲学思想の歴史』1982年12月)
- 「I-1 <生の形>としての魂—『靈魂論』崩壊—以前の思考風景—」竹田純郎・横山輝雄・森秀樹編『宝積比較宗教・文化叢書5 生命論への視座』大明堂, 1998年1月
- 『プラトンと反遠近法』新書館, 1999年2月
- 『ニーチェ—どうして同情してはいけないのか』NHK出版, 2002年10月
- 『フーコー—他のように考え, そして生きるために』NHK出版, 2006年3月
- (共著)『現代倫理学事典』弘文堂, 2006年11月
- 「第二章 ゼノンと初期ストア学派, 第VI章 中期ストア学派: パナイティオス / ポセイドニオス」『哲学の歴史・第2巻: 帝国と賢者』中央公論新社, 2007年10月
- 『魂(アニマ)への態度—古代から現代まで』岩波書店, 2008年3月
- (共著)川本隆史編『講座哲学12・性/愛の哲学』岩波書店, 2009年10月
- 「8章「哲学史」の作り方—生きられた学説史のために」『西洋哲学史I』講談社, 2011年10月
- 「5章アリストテレスの子どもたち—ヘーゲル・マルクス・ハイデッガー—」『西洋哲学史III』講談社, 2012年6月
- 内山勝利・神崎繁・中畑正志共編『アリストテレス全集 1』岩波書店, 2013年10月

【論文】

- 「アリストテレス的自然主義の新展開—「自然的判断」と「行為の性向」の論理形式—」『理想 No. 696』理想社, 2016年3月
- 「知と不知の間—『メノン』における探求のパラドクス—」哲学会編『哲学雑誌』有斐閣, 1980年10月
- 「Amphoterobleptos—断片34におけるクセノパネスの視点—」『現代思想 特集「ソクラテス以前」』青土社, 1982年3月
- 「或る前提—『クラテュロス』における「正しさ」orthotes という思考の帰趨—」日本西洋古典学会編『西洋古典学研究 第32号』岩波書店, 1984年3月
- 「隠喩としてのポリス・隠喩としてのパイデア」『現代思想』青土社, 1985年11月
- 「ARS VIVENDI その変容と変形」『現代思想 特集「変貌するフーコー」』青土社, 1987年3月
- 「翼の如きイロニー—プラトンのイロニー?—」『現代思想』青土社, 1988年5月
- 「<信なき生>をめぐって—アウグスティヌスと古代懐疑論—」『人文学報 第221号』東京都立大学人文学部, 1990年10月
- 「<生の行為>と<真理の探究>—アウグスティヌスにおける懐疑論とその克服の意義」『中世思想研究 第33巻』中世哲学会, 1991年9月
- 「語り得るものと語り得ないもの—<ウイトゲンシュタインとアウグスティヌス>再考—」『東北哲学会年報 第8号』東北哲学会, 1992年5月
- 「理解と習得—「アウグスティヌスの言語観」の原像—」『人文学報 第247号』, 東京都立大学人文学部, 1994年3月
- 「<魂の部分>をめぐって—アリストテレス『デ・アニマ』の構想—」『思索 第28号』, 東北大学哲学研究会, 1995年9月
- 「クリュシッポス『論理学研究』残欠考」『西洋古典研究 第45号』, 岩波書店, 1997年3月
- 「<余儀なき悪>と<行為の始源>—<意思の>とは異なる<自由>との関係において—」『哲学雑誌』哲学会, 1999年4月
- 「二つの合理性—概念的思考と命題的思考」『哲学 第50号』日本哲学会, 1999年

4月

「ドラマとパトス—悲劇と哲学との関わりをめぐって」『現代思想 1999年8月号』青土社, 1999年8月

「<意思>概念の形成と変容」『中世思想研究 第43号』中世哲学会, 2001年9月

「魂の位置—十七世紀・東アジアにおけるアリストテレス『魂論』の受容と変容—」『中国—社会と文化 第19号』中国社会文化学会, 2004年6月

「行為における真—行為の言語的解明とその系譜」『現代思想 2004年7月号』青土社, 2004年7月

「生存の技法としての「自己感知」—ストア派における「自己保存」と「自己意識」の同根性をめぐって—(上)」『思想 第971号』岩波書店, 2005年3月

「生存の技法としての「自己感知」—ストア派における「自己保存」と「自己意識」の同根性をめぐって—(下)」『思想 第971号』岩波書店, 2005年4月

「二つの Sympathy」日本倫理学会編『倫理学年報 第60集』, 2011年3月

「アリストテレス哲学の端初」日本哲学会編『哲学 第64号』, 2013年4月

「第10章 美しさのために—「何かのために」と「誰かのために」をつなぐもの」『内在と超越』知泉書館, 2015年7月

「第12章「思考」を翻訳することは可能か?—訳語としての「幸福」をめぐって」東洋大学国際哲学研究センター編『越境する哲学』春風社, 2015年11月